

にしかわ文代と春日を語る会

あなたの声がまちづくり



春日市の主役は市民

ご挨拶

-2期目の議員として思うこと Part3-

letter通信



ふーみん
春日市市議会議員
西川文代
通信

コロナ禍3年目、皆様方におかれましてはお変わりなくお元気にお過ごしでしょうか。

卒園式も入学式もなく新1年生になった小学生がこの春3年生になりましたが、子ども達も含めすべての人が、マスクに消毒、ソーシャルディスタンスに黙食、不要不急の外出自粛や、営業自粛など、生活や仕事、あらゆる活動における大きな変化を受け入れ対応しながら乗り越え今日があります。新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながらの生活が長期化している中、今の課題は何なのか、ポストコロナ、未来を見据え、すべての人が幸せに暮らせる地域づくりをどのように進めていくのか、対話を重ね方向性を見出す時期であると考えています。

ありがたいことにコロナ禍も市民の皆様から、生活する上で、子どもを育てる上でのご意見やご要望の声を多く寄せていただき、議員として調査研究をしたうえで、一般質問のテーマとして取り上げたり、常任委員会や予算審査特別委員会における審査で、その声を生かし行政に伝えることができました。

早いもので今年度は、2期目最後の1年であり、3期目に向けた1年でもあります。皆様との対話やお声を聴く場を多く持ち、真摯に耳を傾け、掲げたマニフェストと市民の皆様のを市政に反映できるよう活動し、3期目のマニフェストを研究する1年とします。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

誰一人取り残すことがない多様性に配慮した市政運営・教育の在り方を提案してきました

＊ 春日市役所における部長職の女性が2015年1名誕生から初めて2名に増えました！！ ＊

市政に関する重要な意思決定をする役割を担う部長職における多様性が、多様性に配慮した意思決定に繋がりが重要であるという観点から、部長職における女性の数を増やす必要性を2回の一般質問で発信しました。

＊ 春日東中学校の制服が多様性を配慮した形に変わります！！ ＊

中学校の制服において、男子は詰襟、女子はセーラー服の学校があり、性の多様性に配慮できていない現状の課題を一般質問において指摘し、教育委員会にそのことに対する見解を確認し変更を要望しました。

回答は多様性への配慮は重要であるが制服は校則で定められており学校長の裁量である、とのことでした。

その後まもなく国から教育現場における性の多様性への配慮や校則を改善する方向性も示され、対象の中学校において自主的に検討がなされた結果2023年からの制服が決定しているとの報告を受けています。

*この情報は他校にも教育委員会から発信すると、所属する総務文教委員会にて質疑確認済みです。

ダイバーシティ&インクルージョンとは・・・個々の違い多様性を認め、生かしていくこと

西鉄春日原周辺整備でウォークブル推進が決定！！JR春日駅との一体的な整備検討も！！

春日市の中心市街地であり、玄関口である西鉄春日原駅周辺整備事業については、大きな財源を投資する春日市の地方創生にとって重要な事業であるとの認識から、数回に渡り一般質問で取り上げてきました。（直近は次ページ参照）工事の遅延がありましたが、ついに、今年8月には高架化が完了予定です。

その後本格的に駅舎や周辺整備がスタートし、今後春日原駅周辺が大きく変わっていきます。この事業を起爆剤として、春日市の発展と活性化に向けた未来ビジョンを構想したいものです。

ウォークブル推進とは・・・街路を車中心から人間中心の空間に再構築し集い活動する空間とする取組